

## 目標一覧

### ○歯科疾患の予防

目標	基準 (R4)	目標値 (R15)	データ根拠
3歳児で4本以上のむし歯のある歯を有する者の割合	3.1%	0%	3歳児健診
3歳児のむし歯のない者の割合	86.0%	95%	3歳児健診
12歳児の永久歯の1人平均むし歯の本数	1.21本 (R3)	0.83本	8020への道
12歳児のむし歯のない者の割合	63.5% (R3)	90%	8020への道
40歳以上の歯周炎を有する者の割合	68.5%	40%	歯周病検診

### ○定期的な口腔管理の実施

目標	基準 (R4)	目標値 (R15)	データ根拠
1日2回以上歯みがきをする者の割合	81.0%	90%	市民アンケート
歯間ブラシやデンタルフロス・糸ようじを使っている者の割合	32.5%	50%	市民アンケート
過去1年間に歯科検(健)診を受診した者の割合	62.2%	95%	市民アンケート
かかりつけ歯科医を持っている者の割合	46.1%	70%	市民アンケート

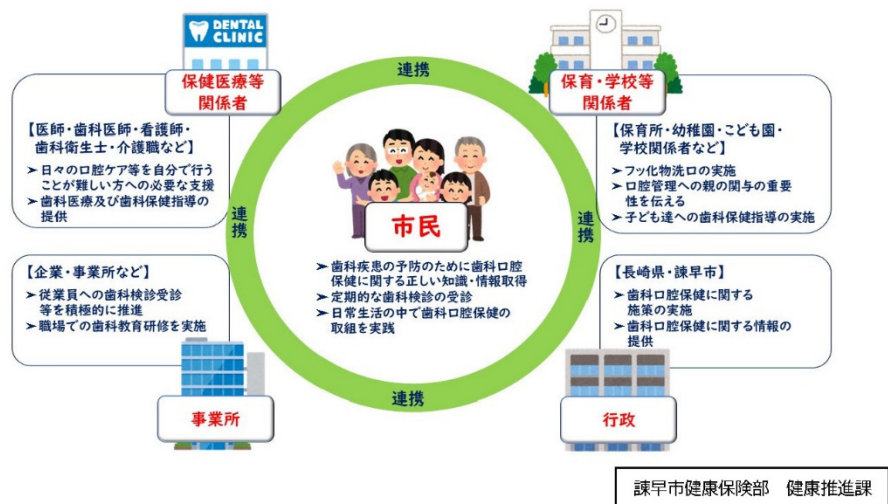
### ○健全な口腔機能の獲得、維持、回復及び向上

目標	基準 (R4)	目標値 (R15)	データ根拠
50歳以上における咀嚼良好者の割合	79.4%	88%	市民アンケート

### ○社会環境の整備

目標	基準 (R4)	目標値 (R15)	データ根拠
幼保施設においてフッ化物洗口推奨を毎年実施する	1回	1回	フッ化物洗口実施施設調査
幼保施設におけるフッ化物洗口実施率	65.7%	80%	フッ化物洗口実施施設調査
小学校でのフッ化物洗口実施率100%の維持	100%	100%	フッ化物洗口実施施設調査
中学校でのフッ化物洗口実施率100%の維持	100%	100%	フッ化物洗口実施施設調査
障害者(児)が利用する入所施設での定期的な歯科検診の実施率	85.7%	90%	県障害福祉課調査
要介護高齢者が利用する入所施設での定期的な歯科検診の実施率	58.3%	87%	県長寿社会課調査

## 関係機関・団体の役割



# 諫早市 歯と口腔の健康づくり 推進計画

令和6年度～令和17年度

## 概要版

### ■計画の趣旨

歯と口腔の健康づくりは、心身の健康の保持増進や生活の質の向上に重要な役割を果たしています。諫早市では平成18年から策定している「健康いさはや21（健康増進計画）」により、ライフステージに応じた歯と口腔の健康づくりに取り組んでいますが、今後更なる充実と総合的かつ計画的な推進を図り、市民が健やかに生き生きと生活できることを目的として、「諫早市歯と口腔の健康づくり推進計画」を策定いたしました。

### ■計画の体系

#### 基本理念

市民一人ひとりが歯と口腔の健康づくりに取り組み、生涯を通じた心身の健康を実現する

#### 基本目標

1. 歯科疾患の予防
2. 定期的な口腔管理の実施
3. 健全な口腔機能の獲得、維持、回復及び向上
4. 社会環境の整備

#### 市民の役割

1. 自分の口腔に関心を持つようにする
2. 自身による正しい口腔ケアの実践
3. 定期的な口腔健康管理のための、かかりつけ歯科医等への受診

#### 行政・関係団体の役割

1. 歯科保健向上のための環境整備、支援、指導
2. 歯と口腔の健康づくりに関する市民への啓発活動及び知識習得の場の提供
3. 本推進計画実施状況の確認と改善

# ■ 諫早市の現状と取り組み

## 1 乳幼児期

### 現状・課題

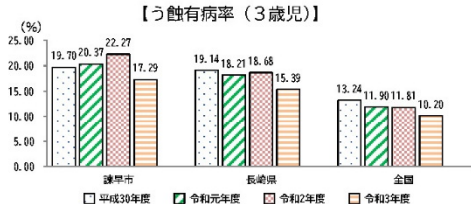
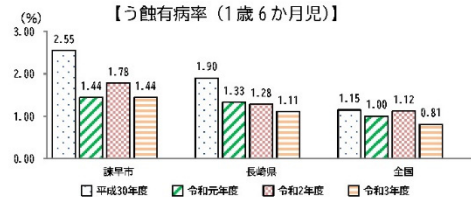
- ・う蝕有病率や1人平均むし歯数について、全国や県と比較して、1歳6か月児から3歳児の間での増加が著しい。
- ・親世代への歯科的なアプローチが十分ではない。
- ・保育所（認可・認可外）施設でのフッ化物洗口が実施できる環境を整え、推進していくことが必要である。

### 個人、家庭でできること

- ・歯科に関する研修会等に参加しましょう。
- ・保護者が仕上げ磨きを行うように心がけましょう。
- ・ゆっくりよく噛んで食べましょう。
- ・家庭でのフッ化物の利用を検討しましょう。

### 関係団体、行政の取り組み

- ・2歳6か月児歯科健診を受診するように促します。
- ・幼児健診でむし歯の多い子へのフォローを行います。
- ・乳幼児の食育について、保護者に向けた周知・啓発を行います。
- ・フッ化物洗口未実施の施設に周知・啓発を行います。



出典：8020への道

## 2 学齢期

### 現状・課題

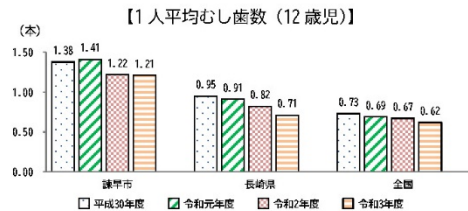
- ・1人平均むし歯数が全国・県平均と比較して多い。
- ・小中学校でフッ化物洗口を実施している。
- ・健診でむし歯がなければ歯科を受診しないのでかかりつけ歯科医を持つきっかけがない。

### 個人、家庭でできること

- ・むし歯や歯肉炎になる要因を知り、家庭で各自が自分の口腔への関心を持ち口腔ケアをできるようにしましょう。
- ・むし歯の治療に関して、保護者がこどもに歯科受診を行うように促しましょう。
- ・食べる能力の向上や確立に重要な時期なのでよく噛む習慣を身につけましょう。

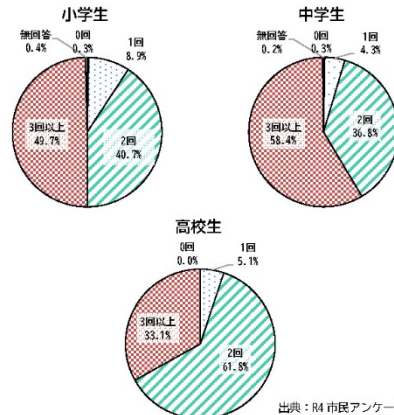
### 関係団体、行政の取り組み

- ・口腔に問題がなくてもかかりつけ歯科を持ち、定期受診することの必要性を伝えます。
- ・小中学校においてフッ化物洗口の100%実施を維持し、フッ化物洗口を実施する人の数や洗口回数を増やし充実を図ります。
- ・学校に出て来られない児童や生徒が集まれる場所を作り、フッ化物洗口など口腔管理を行います。
- ・広報やホームページ、イベントなどで歯の健康に関する情報提供を行います。
- ・学校でブラッシング指導や栄養教諭による食育指導等を実施します。



出典：8020への道

【あなたは、歯みがきを1日何回しますか？】



出典：R4市民アンケート

## 3 成人期

### 現状・課題

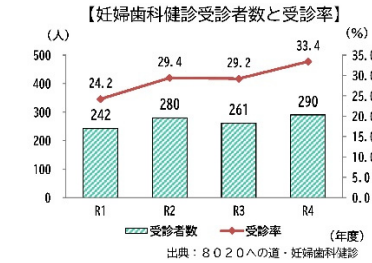
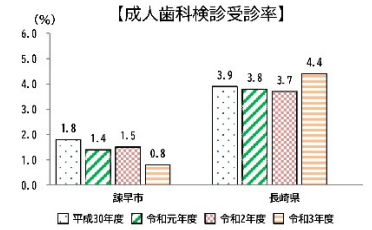
- ・歯周病検診を受けている人が少ない。
- ・仕事の時間を割いて歯科受診しづらく、現役世代はなかなか歯科医院へ行かない。
- ・妊娠期および産後の口腔管理が必要だが十分とは言えない。
- ・口腔管理が生活習慣病に影響することを知らない人が多い。

### 個人、家庭でできること

- ・かかりつけ歯科医を持ち定期的に歯科を受診して専門の口腔ケアを受けましょう。
- ・歯ブラシ以外の口腔清掃補助用具も使用してみましょう。

### 関係団体、行政の取り組み

- ・歯周病のリスクや口腔の健康の重要性について周知を行います。
- ・歯周病検診の受診勧奨を行い、歯科受診を促します。
- ・妊婦歯科健診受診者数の増加を図ります。



出典：8020への道・妊婦歯科健診

## 4 高齢期

### 現状・課題

- ・残存歯数20本以上の人の割合が低い。
- ・誤嚥性肺炎の認知度は高いが、健診制度の認知度は低い。
- ・過去一年間に歯科を受診しなかった人が約50%いる。

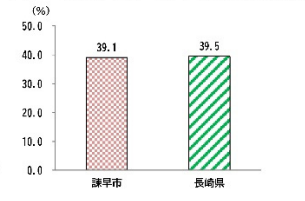
### 個人、家庭でできること

- ・むし歯や歯周病の予防に向けて、歯みがき習慣の継続などに取り組みましょう。
- ・飲み込む機能が低下しないようお口の健康トレーニングに取り組みましょう。
- ・かかりつけ歯科医を持ち定期的に歯科を受診して専門的な口腔管理を受けましょう。

### 関係団体、行政の取り組み

- ・口腔の健康に関する相談窓口の機能強化と市民への周知を推進します。
- ・簡単に口腔の状態を知ることができるお口のチェックシートの活用を促します。
- ・かかりつけ歯科医を持つことの重要性について周知します。

【20本以上の残存歯数の割合（後期高齢者）】



出典：長崎県令和2年度疫学分析に基づく医療費適正化効果の可視化業務報告書

## 5 配慮が必要な人

### 現状・課題

- ・訪問診療など必要な情報が行き渡っていない。
- ・障害者への歯科的アプローチが十分でない。

### 個人、家庭でできること

- ・訪問診療について情報を得ましょう。
- ・家庭での口腔ケアや食習慣、口腔機能障害、嚥下機能に合わせた食形態などに関する知識を習得し、良好な生活習慣を確立しましょう。

### 関係団体、行政の取り組み

- ・配慮が必要な人の現状を把握する体制を作り情報を把握するよう努めます。
- ・配慮が必要な人への支援の充実を図るため行政や歯科専門職を含めた関係職種が連携して知識の向上を図ります。
- ・広報やホームページ、イベントなどあらゆる媒体を通じて、歯の健康に関する情報提供を行います。